

議案第 42 号

小城市重要文化財の指定について

このことについて、別紙のとおり提出する。

平成 28 年 2 月 25 日

小城市教育委員会 教育長 今村 統嘉

提案理由

小城市文化財保護条例第 4 条に基づき、小城市重要文化財を新たに指定するために小城市文化財保護審議会へ指定について諮問したいので別紙のとおり提出する。

小文第 号  
平成 28 年 2 月 25 日

小城市文化財保護審議会  
会長 岩松要輔 様

小城市教育委員会

### 小城市重要文化財の指定について（諮問）

時下、貴職におかれましては益々ご健勝のことと存じます。また、日頃から本市の文化財保護につきましてはご指導とご鞭撻を頂き、厚く御礼申し上げます。

さて、このたび下記の文化財につきまして小城市文化財保護条例第 4 条に基づき小城市重要文化財として指定したいと存じますので、別紙の項目について調査、審議して頂き、指定にふさわしいものかどうか答申をお願いいたします。

### 記

文化財名（所有者及び管理者）

牛津駅絵図 1 点（小城市教育委員会）

(別紙)

- 1 文化財の種別
- 2 文化財の名称及び員数
- 3 文化財所在の場所
- 4 文化財の所有者又は権原に基づく占有者の氏名又は名称及び員数
- 5 文化財の構造、型式、材質、大きさ、重さ、銘、その他の特徴
- 6 文化財製作の年代
- 7 文化財に関する由来、伝承等
- 8 その他参考となるべき事項
- 9 審議会の意見
- 10 添付書類(1)位置図、(2)写真、(3)指定の承諾書等

## 文化財の概要

1	種 別	歴史資料
2	名称及び員数	牛津駅絵図 1 点 紙本彩色手書
3	所 在 地	小城市小城町 158-4 小城市立歴史資料館
4	所有者の氏名及び住所	小城市教育委員会
5	概 要	

当絵図は、江戸時代に牛津川河口左岸に栄えた牛津宿（牛津本町・新町）のうち牛津本町（東から新宿・東町・中町・立町・西町の5町）、栄町、定原村（現天満町）を描く。形状は83.0 cm×126.6 cmの牛津本町・栄町部分に20.0 cm×27.6 cmの定原村部分を継ぎ足している。紙本彩色手書。折り目に沿って焼損が一部認められ、和紙で裏打ちされている。現在の折りたたみ方以外の折り目が確認できるが当初の折りたたみ方は不明である。絵図には長崎街道などの道路や道路沿いの建物、短冊状の屋敷地、橋梁、堀などが描かれている。道路は朱色、堀は青色で着色し、建物は立体的で類型化された表現がされており、藁屋根を黄色に着色し、瓦屋根は瓦を細い直線で表現している。瓦葺建物には窓や玄関が描かれているが、藁葺き建物には描かれていない。建物の記載は「佐賀城下紺屋町絵図」や「唐津内町外町図」には見られない表現である。絵図には貼紙で修正した箇所がある。

絵図では牛津宿は堀で囲まれており、宿の出入口の街道にはそれぞれ2つの点があり木戸を表現していると考えられる。乙宮社の鳥居前から南北の街道(立町)は他の街道に比して若干広くなり、街道に面して上使屋がある。上使屋は大名や幕府の使者が利用する宿泊・休憩施設である。上使屋は瓦葺、なまこ壁の長屋門で脇門がある。立町の南端は広場になりこの広場に面して高札場、馬立があり宿場に関わりの深い馬散使文七、人馬方番人兵左衛門の名前が見える。高札場は石垣で、瓦葺である。中町には脇本陣であつた正満寺が描かれている。参道は石畳で屋根は藁葺である。屋敷地の人名は世帯主と考えられ、女性の名前が確認できる。武士では久本兵五郎（平士 切米 十三石）、中嶋軍一（三人扶持）、中嶋源一郎（物成十石）、持永源左衛門がおり、武士と町人の混住が確認できる。焼跡の表記があるが、江戸時代、牛津宿では頻繁に火災が起きており、この事実を裏付けるものである。

作成時期は当絵図と「乙宮社日記」に記載される人物から推測して文政11年(1828)から明治4年(1871)の間と考えられる。

当絵図は、作成の目的は絵図に記載がなく不明であるが、江戸時代末期から明治時代初めにかけての牛津宿(牛津本町・栄町)と定原村の町割、建物、施設、住人の詳細が描かれており、長崎街道沿いに発展した牛津宿の様子を知ることができる貴重な絵図である。

## 6 その他参考となるべき事項

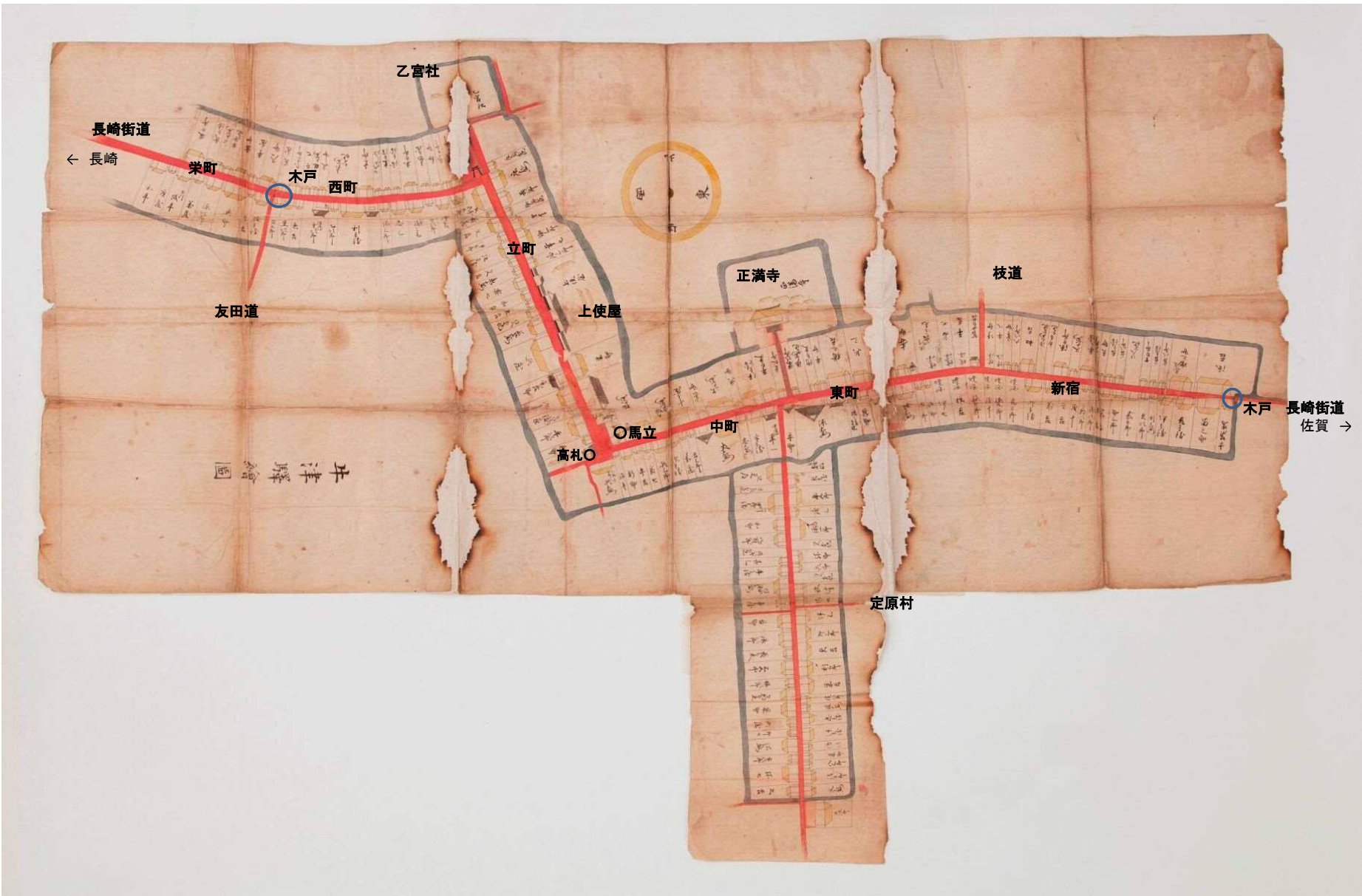
(1) この絵図は牛津町天満町の個人の方が所有されていたもので平成17年に旧牛津町教育

委員会へ寄贈を受け、合併後は小城市教育委員会の所蔵となっている。

- (2) 「新宿」は宿の東の入口から北に向かう枝道まで、「東町」は枝道から正満寺参道まで、「中町」は正満寺参道から広場まで、「立町」は広場から乙宮社鳥居まで「西町」は乙宮社から友田道までで友田道から西は「栄町」で牛津本町には入らない。
- (3) 牛津宿の様子を描いたものに文化8年(1811)作成の「小城郡平吉郷図」がある。
- (4) 江戸時代の町屋を描いたもので敷地、所有者など詳細を記入したものには以下の絵図等がある。  
「佐賀城下紺屋町絵図」佐賀藩 天保15年(1844) (原本) 192 cm×64 cm  
「唐津内町外町図」佐賀藩 (写) 江戸時代中期 彩色手書 294 cm×88 cm
- (5) 「小城藩日記」寛政3年の参勤交代の記録には宿、駅の表記がある。
- (6) 当絵図には「牛津駅絵図」の記載がある。駅の表記をしたものには時代は下るが明治時代の絵図に「轟木駅」、「中原駅」の表記がある。

〈参考文献〉

- 田久保佳寛「牛津駅絵図について」『調査研究報告書』第8集 佐賀県小城市立歴史資料館・小城市立中林梧竹記念館 2015  
古賀次郎『小城藩・着到と武家屋敷』2001 改編  
佐賀県史料刊行会『佐賀県立図書館蔵古地図絵図録』1973



長崎街道

← 長崎

柴町

木戸

西町

乙宮社

友田道

立町

上使屋

正満寺

枝道

東町

新宿

木戸

長崎街道  
佐賀 →

○馬立

中町

高札

井津驛繪圖

定原村